

沿革

〔名 称〕 独立行政法人国立成育医療研究センター

急速に少子高齢化が進む中、次代を担う世代の健全な育成が急務となっている。

このような社会的要請を受け、国立大蔵病院と国立小児病院が統合し、5番目のナショナルセンターとして国立成育医療センターが平成14年3月1日に開設され、平成22年4月1日に独立行政法人国立成育医療研究センターと改組した。平成22年4月1日には臨床研究センターも開棟した。

当センターの使命は、高度専門医療センターとして病院と研究所、臨床研究センターの連携により、成育医療（小児医療、母性・父性医療及び関連・境界領域を包括する医療）及びその基盤研究を推進していくことである。

〔経 緯〕

昭和61年	1月	国立病院・療養所の再編成・合理化の基本方針に基づく全体計画の中で国立大蔵病院と国立小児病院の統合計画を公表
平成6年	7月	国立成育医療センター（仮称）整備基本計画検討会の設置
平成6年	11月	国立成育医療センター（仮称）整備基本計画検討会 中間報告
平成7年	4月	国立成育医療センター（仮称）設置準備室開設
平成7年	5月	国立成育医療センター（仮称）整備基本計画検討会 最終報告
平成9年	1月	国立成育医療センター（仮称）整備基本計画公表
平成9年	3月	国立成育医療センター（仮称）整備工事着工
平成13年	11月	国立成育医療センター（仮称）整備工事（病院棟）竣工
平成14年	3月	国立成育医療センター開設
平成16年	8月	国立成育医療センター研究棟 竣工
平成16年	10月	国立成育医療センター研究棟 移転開設
平成22年	3月	臨床研究センター棟竣工
平成22年	4月	独立行政法人国立成育医療研究センターへ改組
平成23年	4月	11病棟西（周産期病棟）30床増床（合計490床となる）

概 要

独立行政法人国立成育医療研究センターは、病院、研究所を有し、病院内に東京都立光明養護学校および風分教室が併設されている。

所在地及び交通機関

東京都世田谷区大蔵二丁目10番1号

首都高速道路及び東名高速道路の「用賀インターチェンジ」より、環状八号線を経て5分。小田急線成城学園前駅よりバスにより約10分。

環 境

東京都の城西世田谷の西南に位置し、近く多摩川を境に神奈川県川崎市に接している。

周辺には大学、高校、都立砧公園、区立総合運動場、厚生年金スポーツセンター等があり、緑も多く恵まれた環境にある。

研究所概要

特 色

11部3室を開設し、受精からヒトとして成長する過程で生じる疾患の成立機序の解明とその予防、診断・治療法の開発を行っている。

小児血液・腫瘍研究部：白血病やEwing肉腫など小児腫瘍の発症機構解明と、新規診断法や治療法の開発を行なう。

分子内分泌研究部：性分化疾患、性成熟疾患、成長障害、先天奇形症候群などの疾患について、発症機序の解明および分子遺伝学的知見に基づいた新規診断法・治療法の開発を行う。

免疫アレルギー研究部：喘息、アトピー性皮膚炎など小児のアレルギー疾患、免疫異常症の病態解明と新たな治療法の開発を行う。

成育遺伝研究部：「遺伝性疾患」について、その原因遺伝子の解明および診断法の確立を図る。また、これらの疾患に対する遺伝子治療の開発を行う。

母児感染研究部：胎児、小児期感染症、垂直感染の原因となる母児感染症の病態解明および新たな診断・治療法の開発を行う。

システム発生・再生医学研究部：

新規研究システムの構築に基づいた発生、再生医学研究により、胎児および小児の疾患の原因と病態の解明を行います。

薬剤治療研究部：ゲノム情報に基づいた成育医療における創薬の研究を行い、オーダーメイド医療の確立を目指す。また、胎児および小児における薬剤の生体内動態を明らかにする。

周産期病態研究部：妊娠中の胎児発育と母体との関係や出生した新生児の生理学的発達および異常発生機序を解明し、ハイリスク妊娠の新規治療法開発、胎児発育不全の防止法開発を行う。

成育社会医学研究部：成育医療における、疾病構造の調査・研究を行う。また、心身ともに健全な成長を助けるための「こころのケア」に関する調査・分析を行い、実践部門への提言をおこなう。

生殖・細胞医療研究部：生殖医療・再生医療への応用を目指し、受精に始まる初期発生機序やヒトES細胞を含む幹細胞の樹立とその分化機序の解明およびその臨床応用を図る。

成育政策科学研究部：全国の成育医療関連施設と連携し、成育医療に関する情報収集および分析を行い、成育医療・保健のあり方を提言する。

共同研究管理室：病院部門や民間等他の研究機関との共同研究の調整を行い、プロジェクト研究の推進を図る。

RI管理室：RIを用いた研究の管理・調整および研究者の健康管理を行います。

実験動物管理室：動物実験が科学的に、かつ、動物の愛護と福祉に則って実施されるよう教育し、管理を行います。また、発生工学的手法の提供により研究を支援します。

建 物	建築面積	4, 245 m ²
	延床面積	16, 446 m ²

臨床研究センター

臨床研究センター：研究所、病院との密接な連携のもとに、研究成果の臨床応用、高度先駆的医療ならびに治験・臨床研究の推進を図る。

建 物	建築面積	709.67 m ²
	延床面積	1, 186.38 m ²

病院概要

病床数	入院病床	490床
	外来定数	900人

病棟数	母性病棟(LDR含む)3棟	小児病棟	6棟	思春期病棟	1棟	成人病棟
	3棟新生児集中治療病棟(NICU)	1棟	集中治療病棟(ICU)	1棟		

標榜科目	内科、精神科、神経科、呼吸器科、消化器科、循環器科、アレルギー科、リウマチ科 小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科 産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、麻酔科
------	--

特 色	国立成育医療センターでは、小児から思春期、母性・父性にわたるリプロダクション・サイクルを対象とした総合的・継続的医療を行う。 病院では、従来の細分化された医療の反省として、さまざまな病状や訴えをもつ患者様に対して、関連する診療科の多職種がチームをつくり、1人の患者様をトータルにみることを基本としている。次の9つの診療部と2つのセンター、臨床検査部、病理診断部、の体制により
-----	--

チーム医療を行っているのが大きな特徴である。

また、病院は24時間365日開かれ、成育医療の救急病院としての役割を果たしている。明るく、開放的で、アメニティに配慮した病院でもある。

他にセンターの使命として医療の人材育成のために教育・研修部をもうけ、若手医療人の人材育成に努めている。また先進医療の情報発信も行い日本の医療の均てん化に努めているものである。

・総合診療部:救急を含む外来診療の総合窓口として、成育医療のプライマリ・ケアのモデルを模索し、専門診療科とともに入院患者の全人的医療を目指す。

・器官病態系内科診療部:循環器科、腎臓・リウマチ・膠原病科、神経内科、肝臓内科、消化器科、呼吸器科、遺伝診療科からなる。各臓器疾患、染色体異常・先天異常を対象として、高度専門診療を行う。他施設では困難とされる医療も提供する。

・生体防御系内科診療部:器官病態系内科部とともに、小児の内科系の専門診療部門を形成し、主に全身の病気を扱っている。生体防御系内科部には、免疫科、内分泌代謝科、アレルギー科、腫瘍科、血液内科、感染症科の6診療科が属している。

・臓器・運動器病態外科診療部:小児外科・心臓血管外科・泌尿器科という内臓器を扱う診療科と脳神経外科・整形外科・リハビリテーション科という神経・運動器を扱う診療科により構成され、これらの領域の外科的治療を中心に診療を行う

・感覚器・形態外科診療部:形成外科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、歯科により構成されている。各分野における高度の専門的な治療と同時に、部内および院内の他の診療科とチーム医療を活発に行っている。

・こころの診療部:小児期、思春期、母性および父性のメンタルヘルスについての相談を成育医療の場で受け、治療を行う。院内診療部門や地域における関係機関と連携し治療効果をあげる。

・手術・集中治療部:手術・検査のための麻酔、手術室の管理及び集中治療病棟(ICU)入院患者の診療を担当する。また、医療機器に依存している高度在宅医療患者の管理を行う。

・周産期診療センター:正常及びハイリスク妊婦の妊娠分娩管理と胎児・新生児の診療を担当。不妊症・不育症の治療、病的新生児の新生児集中治療病棟(NICU)における診療を行う。

・母性医療診療部:母性内科、不妊診療科、婦人科で構成される。母性内科は合併症を持つ女性の妊娠前から産後にかけての内科的管理を行う。不妊診療科は不妊症の診療を行う。婦人科は小児・思春期から生殖年齢までを対象とした婦人科疾患の診療を行う。

また、女性が抱える“こころ”と“からだ”の悩みを気軽に相談できる『女性総合外来』を平成15年7月から開設。

・臓器移植センター:小児末期臓器不全に対して、生体臓器移植及び脳死臓器移植医療を行う。

・放射線診療部:エックス線、MRI、超音波などの画像診断を統括し撮影と読影を行う。また、核医学検査、腫瘍性疾患患者の放射線治療を行う。

・臨床検査部:病理検査、検体検査、生理機能検査及び輸血・組織適合に関する検査業務を行う。また、高度先進検査室において、日常の検査では行い得ない研究的な検査を行う。

・臨床検査部:

・病理診断部:免疫組織化学検査、電子顕微鏡検査、遺伝子検査などの特殊検査を駆使した精度の高い組織診断、細胞診断、病理解剖診断を行う。病理セカンドオピニオン外来、病理外来では、病理医が直接病理診断について詳細な説明を行う。

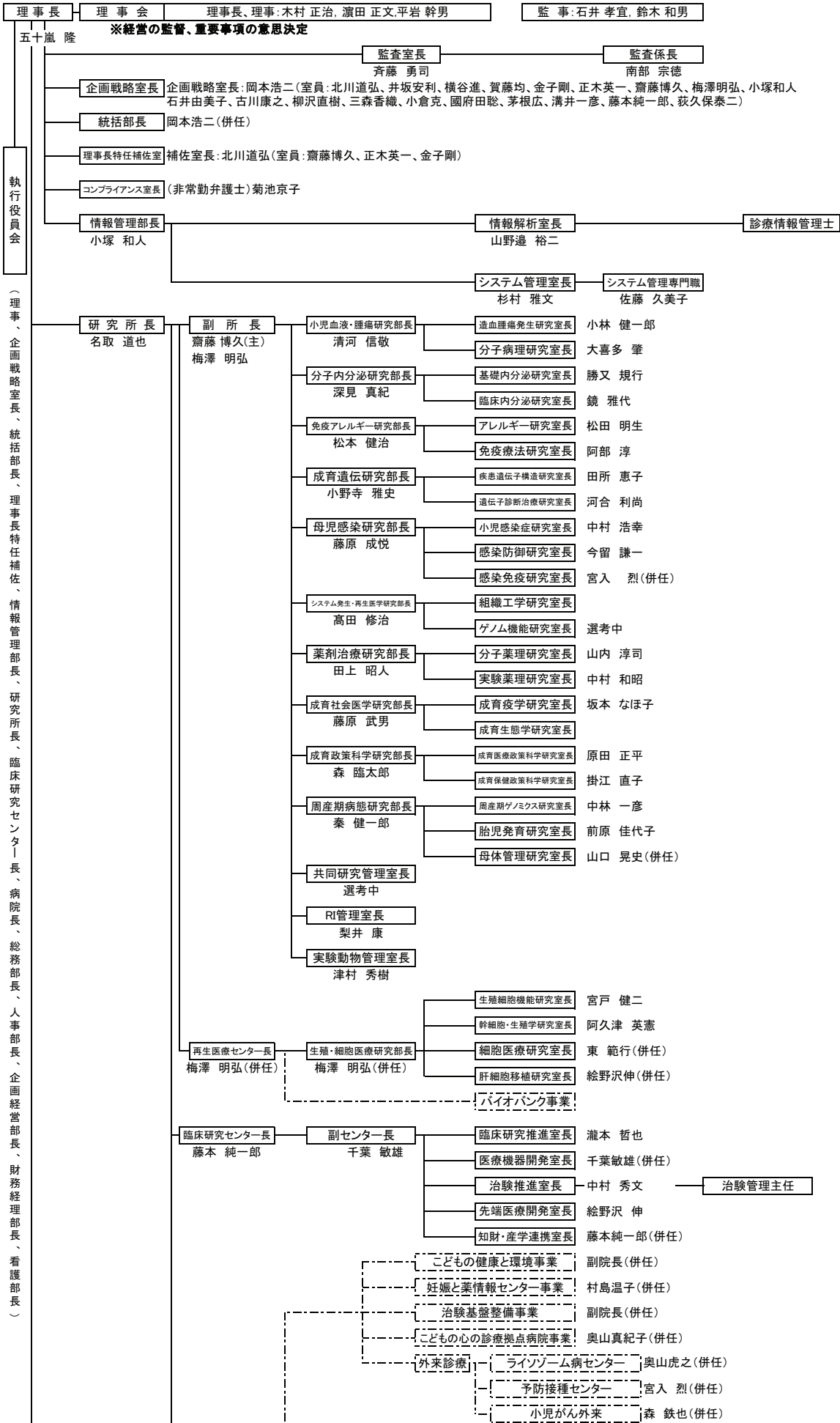
・教育研修部:教育・研修は当センターの使命の一つであり、成育医療に係わる医療者の教育と人材育成を行っている。教育体制の整備、研究所との協力、論文塾、海外との交流などが発展中である。

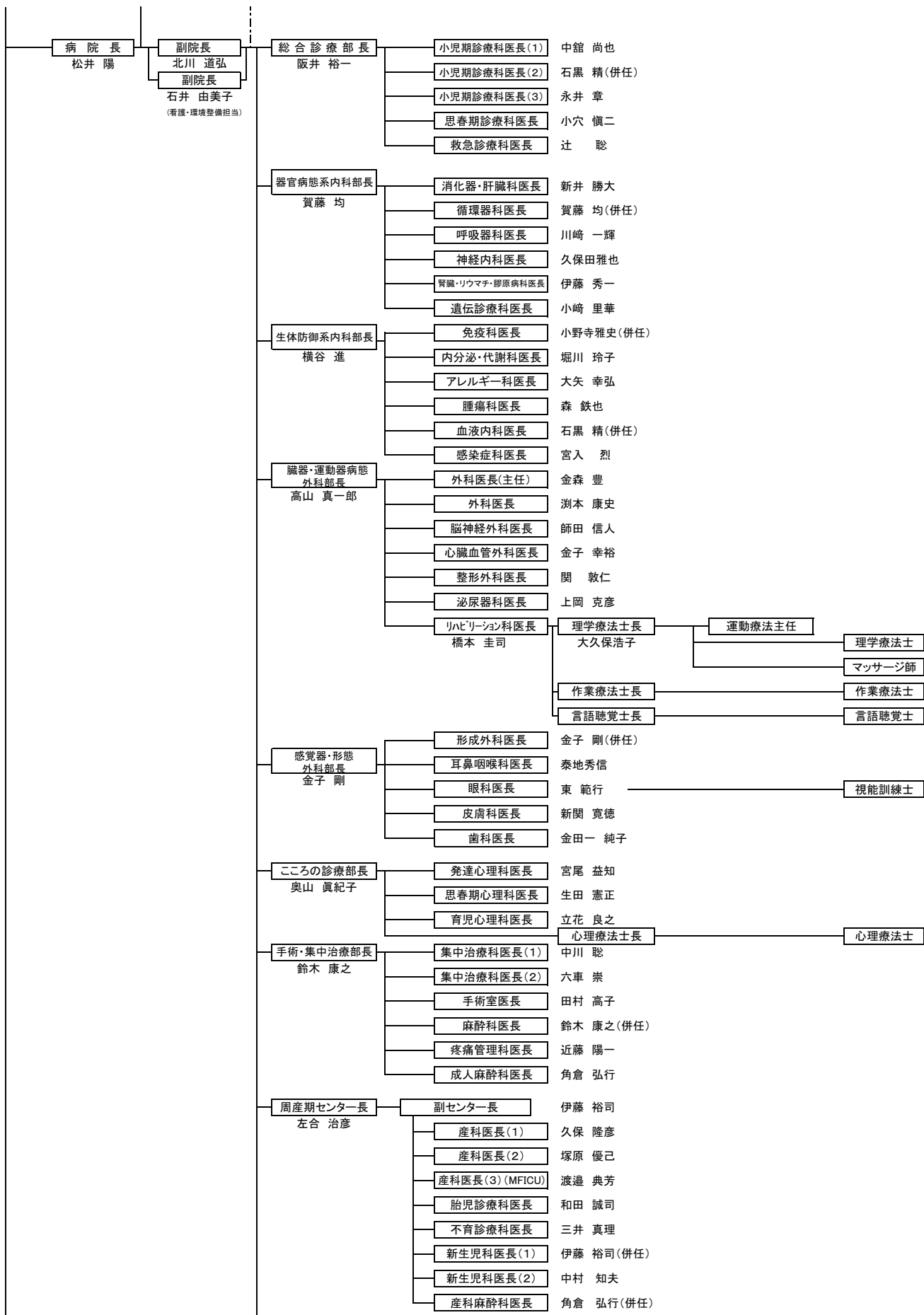
敷 地	78,205.4 m ² (研究所含む)
建 物	建築面積 19,269.56 m ²
	延床面積 99,986.98 m ²

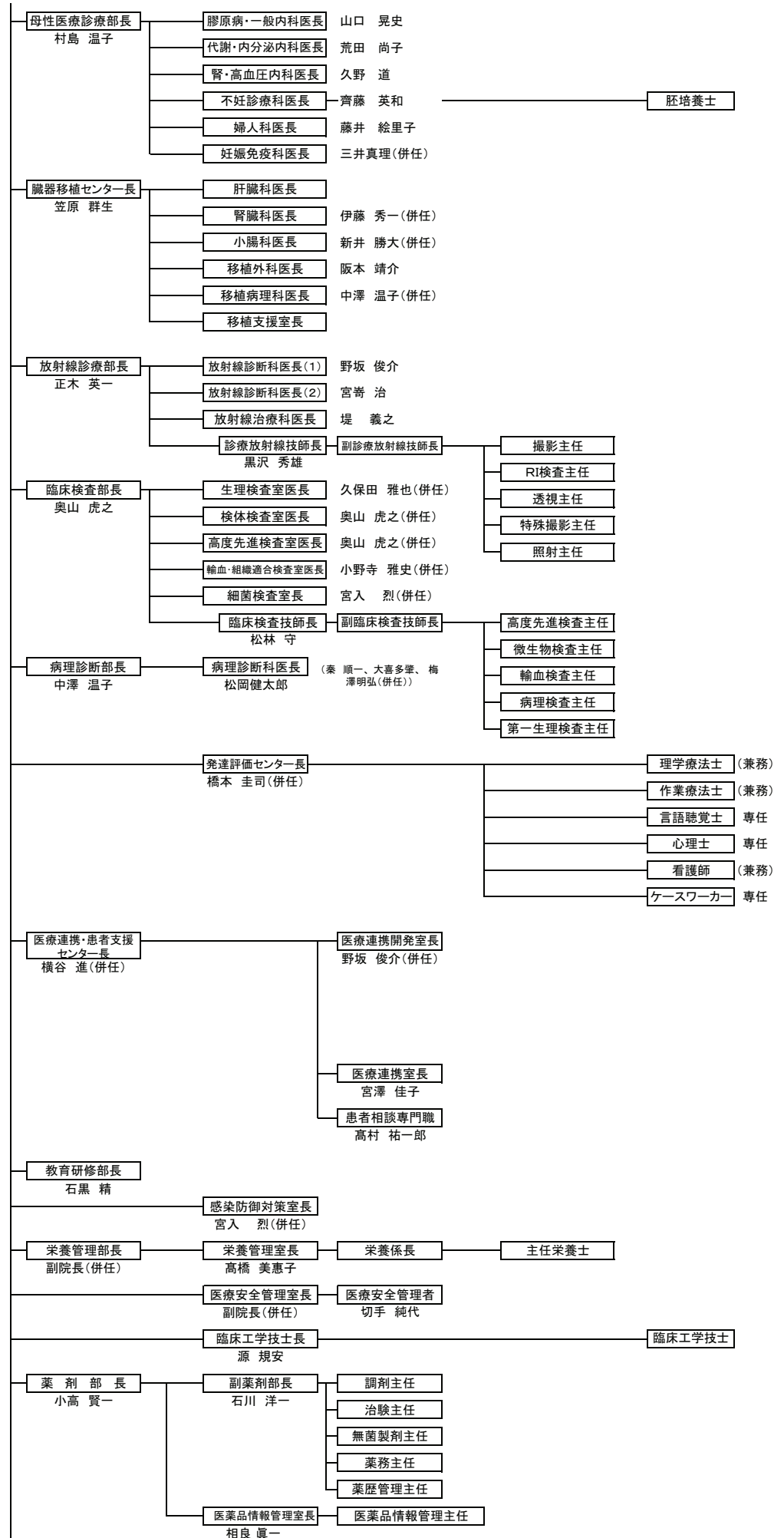
養護学校概要

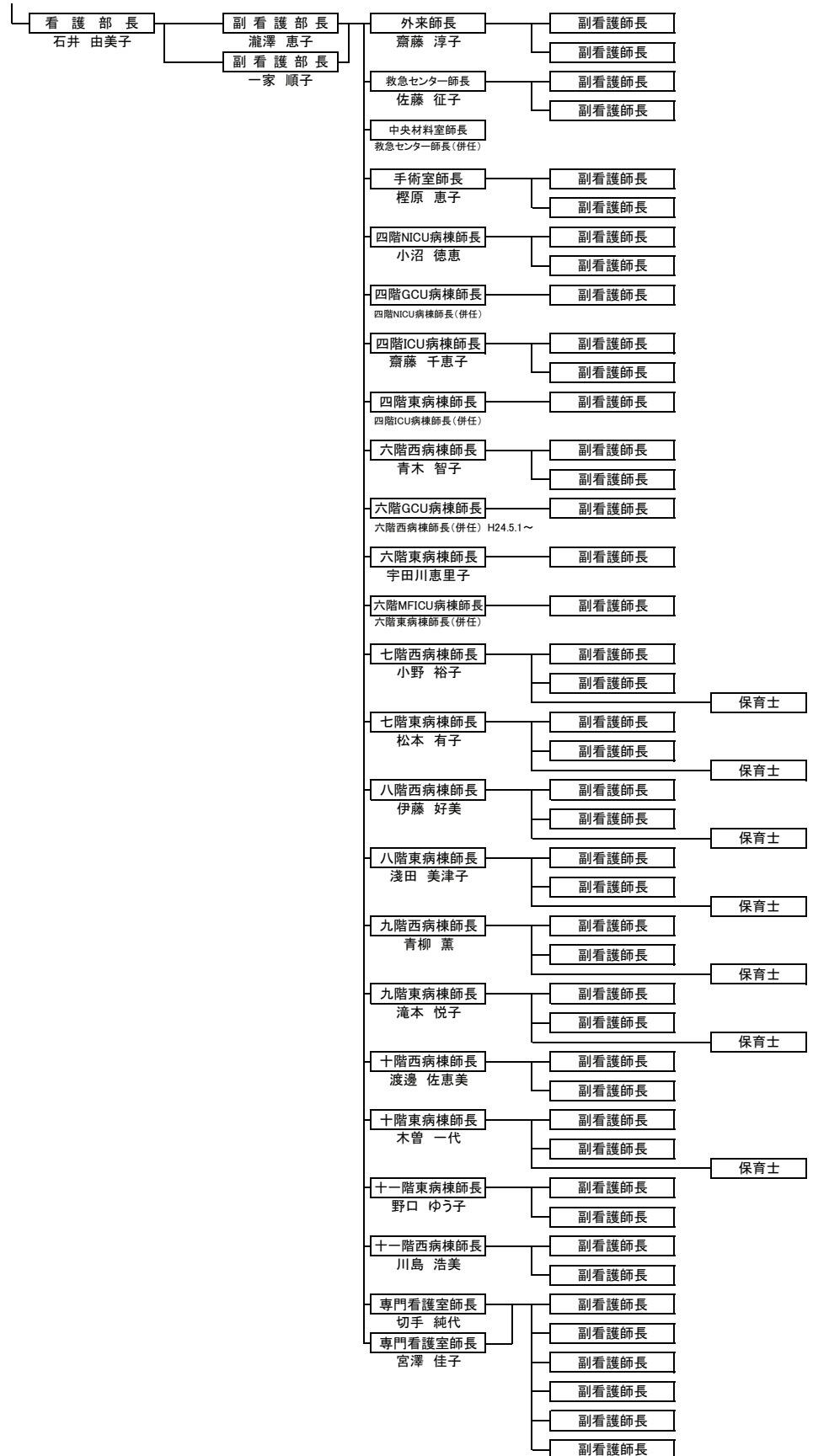
東京都立光明養護学校そよ風分教室として病院管理棟5階フロアに開校されている。小学部、中学部、高等部があり、そよ風分教室には医療的ケアを必要とする児童、生徒が在籍している。

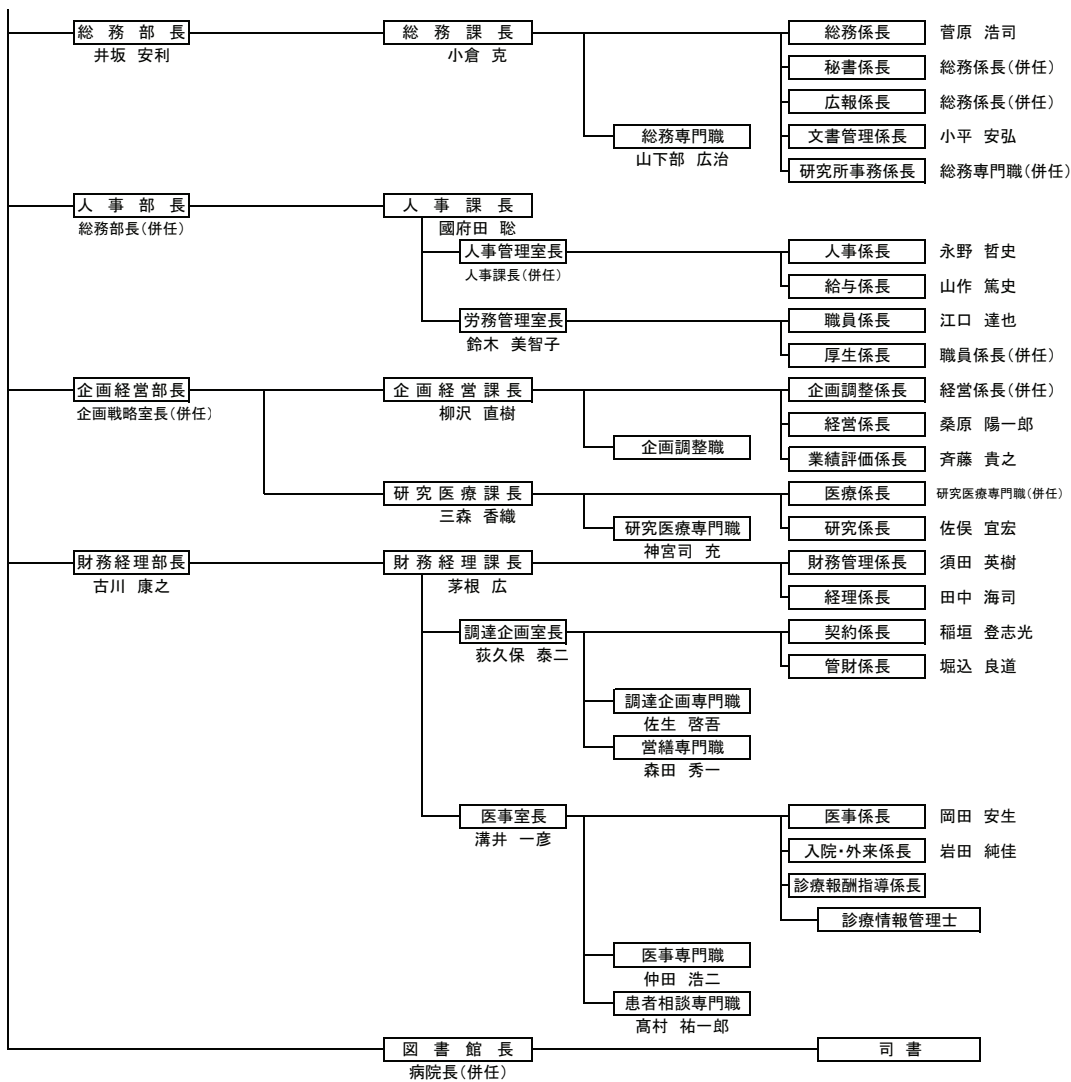
独立行政法人 国立成育医療研究センター組織図











主要行事一覧

開催日	行事名
【 病院 】	
平成 24 年 4 月 28 日	国立病院関東信越地区 平成24年採用者等診療放射線技師のための成育(小児)研修会
平成 24 年 5 月 22 日	感染症地域連携カンファレンス公開講座
平成 24 年 6 月 7 日	世田谷区エンドフォーラム
平成 24 年 7 月 18 日	五十嵐総長ボラティア講演会
平成 24 年 8 月 2 日	第 17 会アレルギー懇話会開講座
平成 24 年 9 月 1 日	第 4 回小児肝臓・肝移植セミナー
平成 24 年 10 月 5 日	保健師研修会
12 日	〃
26 日	〃
平成 24 年 10 月 27 日	国立病院関東信越地区 技士長・副技士長・主任診療放射線技師等を対象とした小児放射線被曝防護研修会
平成 24 年 11 月 3 日	第 23 回日本成長学会学術集会
平成 24 年 11 月 5 日 ～ 7 日	平成 24 年度成育医療研修会
平成 24 年 11 月 18 日	魚鱗癬の会関東地区勉強会・交流会
平成 24 年 12 月 1 日	耳鼻科市民公開講座
平成 24 年 12 月 16 日	外来通院中の糖尿病患者の集団栄養指導及び教育講演
平成 24 年 12 月 22 日	成育在宅懇話会
平成 25 年 2 月 10 日	第 7 回妊娠と薬情報センター研修会
平成 25 年 3 月 2 日	第 8 回「病児の遊びとおもちゃケア」
平成 25 年 3 月 7 日	第 18 回アレルギー臨床懇話会
平成 25 年 3 月 9 日	成育在宅懇話会
【 研究所 】	
平成 24 年 12 月 19 日	実験動物慰霊祭 場所：研究所セミナールーム